

問1 大津宮で政治を行った天智天皇が作成した、日本で最初の全国的な戸籍を何という？

1. 庚午年籍 2. 班田収授法 3. 戸籍法 4. 計帳

問2 天智天皇の死後、大友皇子と大海人皇子の間で跡継ぎをめぐる起こった大規模な内乱を何という？

1. 壬申の乱 2. 元寇 3. 承久の乱 4. 白村江の戦い

問3 壬申の乱に勝利して即位し、天皇中心の国づくりを進めた天皇は誰？

1. 天智天皇 2. 聖武天皇 3. 天武天皇 4. 桓武天皇

問4 大津宮への遷都などを通じて基礎が築かれた、天皇中心の法に基づく国家を何という？

1. 封建国家 2. 中央集権国家 3. 律令国家 4. 古代国家

問5 飛鳥時代、仏教の採用をめぐる蘇我氏と激しく対立した有力豪族を何という？

1. 大伴氏 2. 蘇我氏 3. 中臣氏 4. 物部氏

問6 奈良県の法隆寺などが代表する、現在世界で最も古い建物群のことを何という？

1. 石造建築 2. レンガ造建築 3. コンクリート建築 4. 木造建築

問7 聖徳太子や蘇我氏を中心となって栄えた、日本で最初の本格的な仏教に基づく文化を何という？

1. 国風文化 2. 天平文化 3. 鎌倉文化 4. 仏教文化

問8 聖徳太子が、家柄に関係なく才能や功績によって役人を登用するために定めた制度を何という？

1. 冠位十二階 2. 御成敗式目 3. 十七条の憲法 4. 大宝律令

問9 十七条憲法において、政治の指針として取り入れられた、インドで生まれ朝鮮半島を経由して伝わった宗教は何？

1. 道教 2. 仏教 3. 儒教 4. 神道

問10 聖徳太子が制定した憲法において、仏教の尊重とともに取り入れられた教えを何という？

1. 道教 2. 仏教 3. 神道 4. 儒教

問11 663年に、百濟復興を目指した日本軍が唐・新羅の連合軍に大敗した戦いを何という？

1. 白村江の戦い 2. 壬申の乱 3. 承久の乱 4. 関ヶ原の戦い

問12 蘇我氏を倒したあとの大化の改新で、土地や人民をすべて天皇のものとする政治のしくみを何という？

1. 班田収授法 2. 口分田 3. 公地公民 4. 租庸調

問13 672年に天智天皇の死後、後継をめぐる起きた内乱を何という？

1. 応仁の乱 2. 承久の乱 3. 元弘の乱 4. 壬申の乱

問14 中大兄皇子とともに飛鳥時代に権力を握り、天皇中心の政治の実現を阻んでいた豪族を何という？

1. 藤原氏 2. 源氏 3. 平氏 4. 蘇我氏

問15 壬申の乱で敗れた大友皇子の父であり、大津宮へ遷都した天皇は誰？

1. 持統天皇 2. 聖武天皇 3. 天武天皇 4. 天智天皇

問16 飛鳥時代に摂政として政治を行い、法隆寺などを建立した人物は誰？

1. 蘇我馬子 2. 藤原不比等 3. 中臣鎌足 4. 聖徳太子

答え合わせ・解説

問1	答え 1 庚午年籍	670年（庚午の年）に作成された「庚午年籍」は、日本で初めて全国規模で作成された戸籍です。これにより、政府は誰がどこに住んでいるかを把握し、兵役や租税を課するための基礎資料としました。この正確な戸籍の作成が、後の班田収授法の実施へとつながる重要な足がかりとなりました。
問2	答え 1 壬申の乱	672年に始まったこの争いは「壬申の乱」と呼ばれ、地方の豪族や兵を味方につけた大海人皇子が勝利しました。勝利した大海人皇子は天武天皇として即位し、これまでの豪族中心の政治から、天皇に権力が集中する政治へと大きく転換しました。
問3	答え 3 天武天皇	天武天皇は、即位後に天皇中心の政治体制を整えました。皇親政治を行いながら、律令制度の導入に向けた整備や、歴史書の編纂を命じるなど、国家としての骨格作りを行いました。
問4	答え 3 律令国家	律令国家とは、国の決まりである「律」と「令」に基づいて、天皇が全国を統治する国家の形です。都に政治の中心を置き、官僚が整備され、国民は公地公民（土地と人民は天皇のもの）という原則のもとで戸籍に登録されました。これにより、日本は法治主義的な性格を強めた国へと生まれ変わりました。
問5	答え 4 物部氏	物部氏は日本古来の信仰を守る立場から、蘇我氏が推し進める仏教の導入に強く反対しました。両者は政治的、宗教的に激しく対立しましたが、最終的に蘇我氏が勝利したことで、日本における仏教の公認が決定しました。
問6	答え 4 木造建築	法隆寺の西院伽藍は、現存する世界最古の木造建築物群として有名です。木材の特性を生かした緻密な接合技術や、金堂・五重塔に見られる建築様式は、当時の高度な土木・建築技術を今に伝えています。
問7	答え 4 仏教文化	仏教文化は、聖徳太子や蘇我氏ら有力豪族によって深く信仰され、寺院の建立が活発になりました。中国の南北朝時代や朝鮮半島の文化の影響を強く受けており、大陸風の優美な建築や彫刻が特徴です。法隆寺などの寺院が代表的です。
問8	答え 1 冠位十二階	冠位十二階は、役人に能力や功績に応じて12段階の位を与え、それぞれ色分けされた冠を身につけさせる制度です。これにより、家柄にとらわれない公正な人事を行い、天皇を中心とした国家運営を支える官僚組織を目指しました。
問9	答え 2 仏教	仏教は神道と共存しながら急速に広まり、特に聖徳太子がその普及に努めました。法隆寺などの寺院が建立され、仏像や彫刻などの仏教芸術も発展しました。十七条憲法でも、仏教を篤く敬うことが説かれています。
問10	答え 4 儒教	儒教は、孔子を祖とする中国の思想で、礼儀や孝行、そして君臣関係といった秩序を何よりも重んじます。聖徳太子が制定した十七条の憲法では、仏教を尊ぶ姿勢とともに、この儒教的な上下関係の秩序を取り入れることで、役人たちが天皇に仕えるべき規範を示しました。
問11	答え 1 白村江の戦い	663年、日本は百済の遺臣とともに大軍を派遣しましたが、白村江で唐と新羅の強大な連合軍に大敗を喫しました。この敗戦は、当時の日本にとって国際的な大きな転換点となりました。
問12	答え 3 公地公民	「公地公民」とは、それまで豪族たちが私有していた土地や人民を、すべて国家（天皇）の管理下に置く制度です。これにより、豪族の力を抑えて天皇による一元的な支配体制の基盤を作ろうとしました。
問13	答え 4 壬申の乱	672年に勃発したこの内乱は「壬申の乱」と呼ばれます。地方の豪族を味方につけた大海人皇子側が勝利し、大友皇子は敗北して自害しました。これは、当時の有力な皇族同士による最大規模の内乱となりました。
問14	答え 4 蘇我氏	蘇我氏は飛鳥文化の中心的な存在でもあり、聖徳太子と協力して国の基盤を固めました。しかし、独裁的な権力を振るったことで他の豪族や天皇家との対立を深め、最終的には不満を持つ中大兄皇子や中臣鎌足らによって倒されることとなりました。
問15	答え 4 天智天皇	天智天皇は、唐や新羅の勢力に備えるために都を近江大津宮へ移し、強力な国家建設を推進しました。特に、日本で初めて全国的な戸籍である「庚午年籍」を作成したことは、国が国民を把握し、税を確実に徴収するための非常に重要な転換点となりました。
問16	答え 4 聖徳太子	聖徳太子は推古天皇の摂政として、冠位十二階や十七条の憲法を制定し、能力重視の政治や天皇を中心とする秩序を作ろうとしました。また、仏教を深く崇敬し、法隆寺などを建立して文化の発展を支えました。